

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193000047		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	上福岡グループホームそよ風		
所在地	埼玉県ふじみ野市上ノ原1-5-8		
自己評価作成日	令和4年3月24日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2		
訪問調査日	令和4年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今期に関しては前年度に引き続きコロナ禍もあり行事として外出行事や日々の生活の中でご利用者様を連れての買い物、理美容、音楽療法の活動など、自粛せざるを得ない状況が続いてしまった。またご家族の面会を中止したり、ボランティアや地域の方との交流など他者の訪問を制限せざるを得ない状況も続いてしまい、今期に関しては職員の育成として毎月の研修を各担当に割り振りをした。その結果、自ら学ぶことができ、また自覚も出てきた。当事業所の理念については、資料を作成し勉強する機会を設けた。これにより当施設の在り方について再確認できる方法が出来た。これにより各ご利用者様のグループホームでの目的や生活の仕方、役割を追求することができる。ご利用者様に関しては外気浴や食事作りや家庭菜園など家庭的な環境や取組は最低限保てたとも思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 永年の管理者の尽力とベテラン職員の安定した介護により終末期の支援、医療との連携が図られています。また既存職員が新規職員を温かく迎えることで入職後の混乱を抑え、長期継続勤務が実現しています。
- 利用者ごとの生活歴や特性を考慮し、それぞれに即した支援の実践に取り組んでいます。説明し過ぎることで利用者を混乱に陥れないよう配慮に努め、シンプルかつ伝わりやすい表現をするよう取り組んでいます。
- 一貫して職員の手作りによる食事が提供されています。またサポートスタッフの導入がなされていますが、利用者のできることを奪うことのないよう配慮に努めながら支援が実行されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	研修を通じて理念の共有は出来た。今後はこの理念を基本に業務に取り組まなければならない。研修は実施したものの理解に乏しい職員もいる。そのため理念の研修を続け理解を深める必要がある。	研修、日々の指導を通じて「グループホームの支援とは」を伝えている。現場での安定した介護により終末期の支援、医療との連携が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍に伴い地域との付き合いは薄れてしまった。運営推進会議も書面での開催、美容院や買い物、図書館の利用も自粛している。	新型コロナウイルスの影響により地域交流や社会資源の活用が縮小・中断されている。終息後の再開が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習、傾聴ボランティア、社協のボランティア、介護相談員等受け入れていたがコロナ禍により休止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面上の開催となっているため、意見をいただける機会は訪問箇所では入れない	新型コロナウイルスへの対策として書面開催にて代替している。行政・関係機関との関係継続に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは何かあった場合や不明点があった場合には相談するようにしている。また運営推進会議の書面を活用して事業所の実情等を報告している。	運営推進会議の報告、日々の相談等にて関係構築にあたっている。社会福祉協議会等関係機関との協働もなされている。	来年度より管理者の交代が予定されており、これまでの支援継続、行政等関係機関との関係継続のため、引継ぎ・挨拶回り等を予定している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の研修の実施。又、3か月に一度委員会も開催。その内容は全職員に伝え理解と意識を高めている。研修については身体拘束、虐待防止の職員を担当配置し、その職員を中心に研修をしている	身体拘束廃止委員会の開催、高齢者虐待防止研修の実施がなされている。多様な事例や情報の収集、法人としての考えの伝達、アンケート実施等により適切な支援実施に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、担当者を中心に研修を実施している。また法人でも虐待については注視している部分があり、定期的なアンケートの実施など虐待防止に努めるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要になってくる方はいらる。管理者に関しては対象者の必要に応じた利用を見極め、その方の権利が損なわれないような活用をしたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約書、重要事項説明書、重度化・看取りに関する指針について説明している他、わからない所は随時、質問を受けつけている旨を伝えている。法改正で変わった内容については説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時や電話等で要望を伺い、家族要望・連絡記録帳を用いて職員同士で共有。貴重な意見として運営に反映させている。また法人でも全家族を対象としたアンケートの実施をし意見を募っている	ケアプランの更新等にて家族の意見・要望を聞き策定にあたっている。家族との関係構築をし、終末期の支援や重度化への対応にあたっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体会議を行い、法人の考えや運営についての報告をしている。また社長自ら職員に向けたメッセージの発信をし、管理者を通すことのない社長と職員のやり取りが出来る、開かれた場を設けている	ホーム全体での会議、フロアごとの会議にて情報共有にあたっている。既存職員が新規職員を温かく迎えることで長期継続勤務を実現している。	電子化により業務の効率化を達成しているが、情報共有の薄さを懸念している。ツールの補足等改善していく意向をもっている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は現場の大変さを理解し、現場優先で物事を考えている。また介護職員以外の職員として介護アシスタント、フロアアシスタント等の職員を配置するなど整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年度で研修計画を立てており、オンラインでの参加のため参加はしやすくなっている。またセンター長がいなくても周る仕組みづくりや実務者研修の資格取得に向けた学校も運営をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流についてはコロナ禍もあり、通常とは違うオンラインでの開催となった。ただそのおかげで、なかなか会う機会の少ない全国の同業者との意見交換や学ぶ機会を得ることが出来た		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の実態調査の段階から、本人とコミュニケーションを図り、困りごとや要望など情報収集をし、入居後に安心した生活が送れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろん、ご家族も初期では不安があるものと思う。なかなか要望を言いづらい状況でもあると思うため、話しやすいような環境や傾聴をし必要に応じた提案をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前より、生活するうえで何が必要なのか、現在何に困っているのかを確認している。介護保険ではなく医療保険の活用も含めた提案等をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どうしても職員の立場が優先されてしまっている。暮らしを共にする者同士の関係を築きたいと思っている職員もいるが、出来ない職員の方が多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心として、職員は脇役であって、本人の次に大切なものは本人の代弁者である家族という意識をもった関係づくりを意識することを伝えているが、出来ない職員が多い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外出は控えており、馴染みの場所や人の関係は途絶えている。ご家族についても面会制限があったりしたが、オンラインでのテレビ電話を活用した	衛生への配慮をしつつ、家族との面会を実施している。今後も続くコロナ禍において家族との関係が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや外気浴等でリラックスした場を提供し、会話や交流が持てるよう職員が間に入り支援している。ただ利用者同士で何かを一緒にする機会は減ってしまい、誰か一人が活動する場面が増えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してもご家族様からお届け物を頂くことや連絡が来ることもある。また通りかかったと寄っていただいた方もいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方等、把握に努めてはいるものの、どうしても本人本位ではなく、職員本位となってしまう、職員本位の日中のスケジュールとなってしまう。	利用者ごとの生活歴や特性を考慮し、それぞれに即した支援の実践に取り組んでいる。説明をし過ぎ、利用者を混乱に陥れないよう配慮に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前に、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めているものの、期間が過ぎるにつれ、その意識は低下してしまっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に日常生活を過ごし、心身状態の把握に努め、変化があれば記録し職員同士で共有している。有する力においては、残存能力活かす以外にも潜在能力を見つける必要性を感じており、職員によって対応に差が出てしまっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にてご本人の現状や今後の課題を話し合い、ご本人やご家族様の要望も取り入れ作成している。	サービス担当者会議を開催し、利用者の変化や状況を検討している。利用者・家族の思いを反映したプラン作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの実施や記録はつけているものの、大事な部分の共有が出来ていなかったり、記録が不十分でもあるため、共有不足がある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況は日々変わる。その時に大事なことを本人や家族の思いを優先し、困難なニーズにも応えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用したいと考えているものの、運営推進会議で集まれなかったり、コロナ禍で美容院や図書館、買い物などは自粛せざるを得なかった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援については、ほとんどの方が往診に切り替わってしまった。昔からの付き合いのある病院にそのまま受診するのが理想ではあるが、緊急時の対応等で往診を選ばれることが多くなっている	往診医療機関、訪問看護事業者と連携し、利用者の健康管理にあたっている。進行する利用者の重度化にあたり、更に家族・医療機関との調整に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師とは情報を共有し、医療的な助言をいただいている。看護師については、週に1度の出勤ではあるが、体調確認をしており、その情報も介護職員に伝わっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には医療関係者やご家族と情報交換をしている。入院することにより心肺機能の低下や認知症の悪化なども踏まえ早期退院に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、早い段階に見極め、ご家族や医療関係者との担当者会議を開催している。担当者会議にて家族と医療側の意見、事業所で出来ること、医療保険に頼るところなど、大切な終末期を心をつなげて送ってあげられるよう職員が間に入っている	重度化・終末期の支援に対して入居時に指針の説明にあたっている。終末期の支援において家族と協働できるよう日頃よりコミュニケーションを密にすることを大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は全てセンター長が行っている。現場の配置職員は対応が困難なことがあるが、その時をどうするかは初動に関しては身についてはいない。訓練も必要だが訓練をしてもいざという時に成果がでるかかわからない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っているものの突然の災害時に、訓練の成果が出し切れるか不明。地域との協力体制もどこまで築けているのか不明	定期での避難訓練実施がなされている。これから迎えるホームの変化にあわせて安全・災害対策について再考していくことが求められる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	繰り返し研修で伝えてはいるものの、適切でない声掛けを耳にすることも。ミーティングや定期開催の身体拘束適正化委員会で話し合ったりしている	利用者の自尊心や意向を把握し、一人ひとりに適したケアに努めている。職員を変える、支援方法を検討するなど利用者の意思・選択を尊重するよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添いたい気持ちはあるが時間帯によっては希望に添えない時もある。また職員の都合の良いように誘導してしまうこともある。言葉を発せない方に対しては職員の都合になっている事も多い		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に添えない時間帯もあつたりするが、ほとんどの方が希望に沿うことが出来ていない。一人ひとりのペースを大切に考えられる職員と、そうでない職員がいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や髭剃りなどその人らしい身だしなみが出るよう声掛けや介助をしているが一部の方に偏ってしまっていたり、職員の支援する意識も薄れている。理髪に関しても職員の都合に会う長さにしてしまうことがある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、能力に応じて準備や盛り付け片付けに参加して頂いているが、一部の方の参加であつたり、手持無沙汰になっている方もいる。一回の食事の準備でも多数の方に参加できるようにしていきたい。	一貫して職員の手作りによる食事が提供されている。サポートスタッフの導入がなされているが、利用者のできることを奪うことのないよう配慮に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分量は把握しているが、栄養バランスは難しい。なるべく多くの食材を使用し偏りがないようにしている。水分に関しては一日1,500ccを目標としているが、取れていない方も多く意識不足が発生している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守り、時に介助にて対応しているが、ご本人に任せてしまっていることもあつたり、実施が出来ていないこともある。契約している方については、毎週の訪問歯科の先生からの指示をいただいたり、相談をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の間隔を把握し、トイレ誘導を行っている方もいるが、職員都合となっている方もいる。日中排泄の失敗がない方にリハビリパンツを使用することもあり、見直しする必要がある	利用者の日々の排せつについて記録と確認がなされている。迅速に・見やすいようデータと書面と双方に記録がなされており、的確な指示や支援ができる体制となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については便通が良くなるお茶を購入し提供している。また水分摂取はお茶以外にも牛乳やオリゴ糖等を提供している。便秘がちの方には便座に長く座って頂き排便を促しているものの職員によって時間が短かったりと対応が変わっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングについては入浴チェック表をもとに声かけをしている。入浴の人数は前期、数値化することで、より多くの方が入浴できるようにはなったが、今期については減ってしまった。入浴のタイミングも職員都合のペースになることもある	午後の時間帯を使い、ゆったりと入浴を楽しんでもらえるよう努めている。また利用者により入浴の必要性や回数などを伝え、理解の浸透を支援のしやすさに結びつけるなどの工夫もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については本人の気持ちを優先しているが、職員の都合となっていることもあり、お昼寝時間も長くなる方もいる。夜間に関しても職員の都合での就寝時間になることが多い		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等、服用方法、薬名を含め、知識不足は否めない。薬に関しては正しい知識を習得する必要がある。処方が変わった場合の注意事項についても意識が薄い職員が多い		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全般、能力に応じて支援しているが、色々出来る方が時間多くを持て余す事もある。また単調になりやすい日々の生活となっている。役割に関しては、その方の能力に合わせ。少しでも良いので担って欲しい部分もあったが、そこまで増やせたとはいえない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出は出来ないが、ベランダや玄関先での外気浴、ゴミ捨てのため外に行ったり、庭の花や野菜を見に行ったりと、外の空気に触れる機会を作っているが、一部の方のみで、利用者さんの要望に応えられないことが多い	新型コロナウイルス感染防止策にあたり、外出行事等の減少を余儀なくされている。日光浴・ごみ捨てなど日常での場面を取り入れながら外気に触れる機会を多くするよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	好きなものを買ひ、お金を管理する事は楽しみにも繋がりますため支援しているが、今はほとんどのの方がその能力を持ち合わせておらず、一部の人に限られている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望はほとんど無いが、ご家族様からの手紙やビデオ電話にて交流が出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の業務に追われることもあったが、職員の意識不足や行動不足もあり、居住空間の片付けなど整理整頓が上手くいかなかった。また季節感ある装飾品なども出来ない	廊下やリビングへの飾りつけなど室内においても季節を感じられるよう配慮している。感染対策については消毒、検温およびゾーニング・居室対応等を講じ、安全と衛生の確保に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を置いてはいるものの、一人になれる空間というより、ご利用様が利用を遠慮しているようにも思える。もう少し職員が声をかけ居場所を作る必要があると思う		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で使い慣れた家具や故人の仏壇等、今まで使っていたものを持ち込んで頂いており、いつでも思い出に触れられ、安心した生活が送れるようにしている	居室担当職員により室内の整備、会議での報告等がなされている。テレビを見たり横になったり利用者自由で過ごすことができるスペースが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用様が分かりやすいよう、表札やトイレの札など取り付けているほか、席替えることでの環境変化にも十分気を付けた話し合いをしている		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18, 21	職員の業務が優先となり、利用者様とレクリエーションや談話などをする機会が減っている。	利用者様の楽しみを増やす。職員や利用者様同士の交流の機会を増やす。	介護アシスタントが出来る作業はお任せし、時間を作る。ラジオ体操の他にもレクリエーションを取り入れる。まずは職員と共有し、レクリエーションの時間を日程に取り入れる。	3ヶ月
2	49	コロナ禍により外出する機会が減っている。足が不自由な方が増え、特に2階の利用者様は気軽に行くことができない。	規制が緩和されている時期は散歩や図書館、買い物などコロナ禍以前の生活に戻す努力をする。外出できない場合は代替りの楽しみを提供し、楽しみを増やす。	利用者様ご自身の買い物は、ご本人も一緒に行って頂く。階段の昇降は1階の職員にも協力して頂き外出の機会を増やす。特定の人に偏らないよう、チェック表を利用する。庭の畑を充実させ毎日のお世話や収穫をし、楽しむ。	6ヶ月
3	20	コロナ禍により面会が減り、LINE電話を活用しているが、ほとんどの利用者様はできていない。ご家族様との交流が遠のいてしまっている。	ご家族様との交流を増やす。	面会が緩和されていれば、その都度ご家族様に連絡する。その際もLINE電話も周知していく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。